

赤井観音堂

—赤井—



赤井にある赤井観音堂

赤井地域は、町のほぼ中央に位置します。集落の中ほど、清水の湧くほとりに「赤井観音堂」があります。

観音堂には、「十一面千手観音像」、その脇侍に「不動明王像」・「毘沙門天像」が観音三尊として祀ってあります。堂の周りにいくつもの石造物があり、四方に仏像が彫つてあるものや五輪塔、残欠などもあり、赤井城が築城される前に寺院があったと思われます。

赤井の台地には、中世時代に福田寺の里寺としての寺院があり、福田寺へ修行に行く修験僧や信者たちの出発地でもあります。また、里の民衆への布教の拠点でもあったと推定されています。赤井の地名は「関伽」（仏前にささげる清らかな水）が湧き出るところから付けられたのかもしれませんが。現在は、小堂となつて観音堂として安置されていますがもとは赤井バス停の前にあり、おそらく戦国時代の天文16（1547）年頃、木山城主が赤井城を築城した時、小堂に移して安置したのだろうと推測されます。観音菩薩は人々に慈悲を与え、苦しむ人々を救済する仏でもありました。観音像を安置することで遠くからも参詣し、「現世利益」の祈願をしたのでしよう。

「赤井観音堂」の横を澄みきつた清水が流れ、町外からも涼を求める親子連れが訪れ親しんでいます。

9月15日には赤井地区の多くの人が集まり、お神酒を上げ、子どもたちにはお菓子をふるまうなど地域の親睦と「五穀豊穡」を祈る「観音さん祭り」が行われています。

参考文献

『益城町史 通史編』

『益城町史 史料・民俗編』

『福田村郷土誌』

益城町文化財保護委員会

俳句

早川宏次 選

大蟬螂（かまきり）ジーヤカーテン（へいけい）睥睨（へいけい）す
いてふの実ミレーの絵の如拾いけり
大粒の秋弾けしや丹波かな
名目の灯りをかざし地図の旅
名月や東の空に低くあり
満月も過ぎて残暑の彼岸入り
残月の吾照らしをり朝まだき
里山の棚田に光る稲穂かな
コスモスのやさしく揺れて夫と行く

下陳 城 陶子
惣領 小森英美子
惣領 阪口 基明
木山 増岡 伸禱
広崎 松原まゆみ
惣領 新居 露子
木山 山口サツキ
惣領 阪口由美子
江津 高田美佐子

狂句

田上富岳 選

たまがった 整形すつとあぎゃんなる 宮園 永瀬 美波
たまがった ゼニもつけにはすすどかつ 宮園 井藤 吉郎
たまがった ゆうと見たなら知った人 宮園 岩本ようく
たまがった とごろ巻いとる蛇踏んだ 木山 増岡 酔粹
たまがった 虫も殺さん顔をして 江津 高田美佐子
万が一 わたし名義に変えといて 寺迫 左 喜樹
万が一 有る筈も無あそんな事 下陳 山田 凡骨
万が一 先と合わずば直ぐ帰れ 島田 堀川 骨鶏
万が一 ロトが当たればどうしゅうか 広崎 松原まゆみ
万が一 鷹職今も神拝み 惣領 阪口 基明

狂句次号の課題 「もう一息」「ムリだった」

投稿は役場広報係まで。

投稿締切日は毎月15日です（当日必着）。

※数種に投稿される場合は、別にお送りください。